

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		放課後等デイサービスゆいまーる福島		公表日		2025年 3月 5日	
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	4	1	限られたスペースで有効に使われている。3室を有効に使う工夫をしている。	動きの多い子には窮屈かもしれない。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	2	2	常勤・非常勤職員を適切に配置している。	職員の急な休みや利用者数のぼらつきがあり難しいと思うが、もう少し増員出来れば良いと思う。	
	3	事業所の設備等について、バリアフリーの配慮が適切になされているか。		3		仕方なさを感じる。改善の余地が多々ある。	
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	3		毎日の打合せや月1回のスタッフ会議で話し合っている。	全体の周知や意思統一を図る時間を取るのが難しい。	
	5	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	1	1	毎日の打合せの中で業務改善について話し合っている。	評価表の集計が回覧までで話し合いまでできなかった。	
	6	この自己評価の結果を、事業所の開放やホームページ等で公開しているか	3		事業所入口に掲示している。		
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		3		第三者評価は実施していない。	
適切な支援の提供	8	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	1	1	スタッフ会議にて適宜に情報提供している。	職員は高い能力を備えているがアップデートするフォローが必要。	
	9	個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	4		児発管との打ち合わせや保護者面談を反映している。		
	10	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	4		標準化したフォーマットで実施している。		
	11	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	3	1	毎日の打合で作成している。		
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	5		利用者の状況を把握しながら行っている。		
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援しているか	3		利用者の状況を把握しながら行っている。		
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成しているか	4		日常的に集団での交流を大事にしている。		
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	4				
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	3	1			
	17	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	5		記録作成の時間が取れるよう工夫している。		
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断しているか。	3		利用者の状況に合わせ、モニタリング時期の変更などを柔軟に行っている。		
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っているか	2		個別支援計画書において明記し、支援を行っている。			

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
関係機関や保護者との連携	20 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	5		児発管が参加している。	
	21 学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	4		利用者の状況により、自事業所から各連携機関へ担当者会議を開くことに積極的に動いている。	
	22 医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えているか				医療的ケアの必要な児童の受け入れは行っていない。
	23 就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	3	1	家族との連携を密にすることはもちろん、必要があれば学校とも連携し行っている。	
	24 学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	2			
	25 児童発達支援センターや発達支援障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	2			
	26 放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	1	2	地域のお寺との交流の機会を作っている。	
	27 (地域自立支援) 協議会等へ積極的に参加しているか	3		協議会の下部組織である連絡会に参加。	
	28 日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	5		必要な際にはLINEを使用し、密に連絡をとり、面談等も適宜行っている。	
	29 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレントトレーニング等の支援を行っているか	4		ママカフェを開いた中で、お子さんとの向き合い方や子育ての悩みなどを共有する機会を作っている。	
保護者への説明等	30 運営規定、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	4		児発管より説明している。	
	31 保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	3		連絡を密に取れるよう工夫している。変化があった際にはすぐにご家族と状況確認に努めている。	
	32 父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	1	1	月1回「ママカフェ」を開催し、子育ての悩みなどについて共有する機会を作っている。	
	33 こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	4		文章やメールで問題発生時には迅速に行動している。	
	34 定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	2	2	不定期ではあるが情報を発信している。	
	35 個人情報の取扱いに十分留意しているか。	5			
	36 障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	4			
	37 事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	1	2	地域のお寺のイベントへの参加。	
	38 事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	2	1		訓練の機会が設けられていない。職員への周知は出来ているが、保護者へは出来ていない。
	39 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	3		研修会、事例会議の実施を行っている。	
非常時等の対応	40 どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	3			
	41 食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	3			
	42 ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	3			